

# キャンパスネットワークシステムを 活用した保健業務・研究活動

佐藤幸美子\* 小野 恵子\* 辻岡三南子\* 齊藤 郁夫\*

湘南藤沢キャンパス（SFC）は、21世紀を担う若者の育成を目的とし、当大学他キャンパスとは異なる教育・研究・運営システムで1990年に創設された。その特徴の一つは、キャンパスネットワークシステム（CNS）が充実していることである。CNSは、SFC内の1,000台を超えるコンピュータを結び付けていると同時に、インターネットにも接続されている。SFCの約4,500名の学生および約250名の教職員全員が、CNSのユーザーIDを所有している。学生は、CNSにより各教室に設置されているワークステーションを利用し、電子メールの読み書き、レポート作成・提出、体育予約、インターネットのウェブ上（WWW: World Wide Web）での閲覧等さまざまな活動を行うことができる。CNSの使い方は、1年生のときに開講される「情報処理I」で全員が履修する。SFCでのCNSは、教育・研究の基盤および電子文房具として、キャンパスライフには欠かせないものといえる。

## 保健管理センターにおけるCNSの活用

### 1. 電子メールによる学生個人の呼び出し

従来、学生への連絡は、掲示板に呼び出し状を張る方法で行っていたが、個人が登校してい

なかったり、気が付かなかった場合は、連絡をつけるまでにかかり時間がかかっていた。しかし、電子メールを利用したところ、予想以上に学生からの応答があり、連絡をつけるのに時間がかからなくなった。電子メールは、90%以上の学生が1日1回以上の頻度で利用しているという報告もあり<sup>1)</sup>、通信メディアとして有効な手段の一つであろう。

### 2. メーリングリストの活用

教職員は、一斉にメールを送信できるメーリングリストに登録されている。診療時間の急な変更やお知らせ等、緊急対応が必要な場合に活用している。

### 3. アンケート調査

平成12年6月12日～6月26日の15日間にわたり、インターネットのWWW上にホームページを開設し、“夜間残留”の実態把握のアンケート調査を行った。

次に、その詳細について述べる。

## WWWを利用したアンケート調査

SFCのもう一つの特徴は、キャンパス施設が24時間開放されており、教員および学生が“夜間残留”できることである。“夜間残留”とは、届け出を出したうえで、通常のオープン時間（午前8時～午後11時）以降も施設を利

\* 慶應義塾大学保健管理センター

用することである。キャンパス内の夜間残留者を調査したところ、月あたり平均約 2,000 名にのぼった。“夜間残留”後に体調不良を訴え、保健管理センターに来所する学生もいる。そこで今回、SFC に在籍する、大学学部生男子 2,675 名、学部生女子 1,446 名、大学院生男子 332 名、院生女子 117 名の合計 4,570 名を対象に、CNS を活用して“夜間残留”の実態把握のためのアンケート調査を行った。

## 1. アンケート方法

ホームページ上に、閲覧者とデータをやり取りするために必要なプログラムでアンケート作成・掲載



回答

統計ソフト Excel で処理できるよう、データの保存 (CSV 形式保存)



マイクロソフト Excel にて統計編集

## 2. アンケート入力画面

### アンケート

所属学部:  総合政策学部  環境情報学部  健康・メディア研究科

学年:  1年  2年  3年  4年  大学院生

性別:  男  女

通学時間 (片道):  時間  分 ※角で入力してください

残留をする教室 (複数可): \_\_\_\_\_

住居状況:  自宅  自宅外

Q01: どのような目的で残留することが多いですか?  
 授業の課題 (単位につながるもの)  
 自発的な研究・プロジェクト (単位につながるもの)  
 その他 (行事など) \_\_\_\_\_

Q02: 最大の残留時間を教えてください  
 一晩のみ  
 2~3 時間程度  
 1 週間以内連続  
 それ以上

Q03: どのような理由で残留することが多いですか?  
 家ではできない その理由: \_\_\_\_\_  
 気が付いたら帰宅できない時間になっていた  
 帰宅するのが面倒だから  
 交通手段がない

Q04: 主に残留は何人でしたか?  
 一人  グループ

Q05: 夕食はどのようにすることが多いですか?  
 自宅から持って持ってくる  
 校内の食堂で食べる  
 外へ食べに出かける  
 コンビニで買って持ってくる  
 食べない  
 家で食べてから来る  
 その他 \_\_\_\_\_

Q06: 普段の夕食はどうしていますか?  
 自宅 (家族が作る)  
 自炊  
 外食、コンビニ弁当など

Q07: 残留のとき、どんなものを食べる人が多いですか?  
 手作り弁当  
 外食 (食堂、ファミリーレストランなど)  
 インスタント食品  
 レトルト食品  
 コンビニ弁当  
 ファーストフード  
 菓子パン  
 スナック菓子

Q08: 水分類は何を摂取することが多いですか?  
 お茶、紅茶、コーヒー類  
 ジュース類  
 アルコール類

Q09: 睡眠は平均でどれくらいとりますか?  
 全く眠らない  
 仮眠をとる: 睡眠時間は  時間くらい ※角で入力してください  
 寝れがとれるくらい熟睡する: 睡眠時間は  時間くらい ※角で入力してください

Q10: 睡眠はどのような状態であることが多いですか?  
 睡眠はとったことがない

Q10: 睡眠はどのような状態であることが多いですか?  
 睡眠はとったことがない  
 布団で寝る  
 寝袋で寝る  
 ソファ等 (イス) などを利用する  
 机にうつ伏せで寝る  
 その他 \_\_\_\_\_

Q11: 残留後の体調について伺います。(複数回答可)  
 だるい  
 頭痛  
 食欲がない  
 喉が痛い  
 肥る (太る)  
 目がチカチカする  
 肌荒れがない  
 吐き気がする  
 臭い感じがする  
 息苦しい感じがする  
 咳が出る  
 便ががちになる  
 胃腸の調子が悪くなる  
 イライラする  
 やせる  
 集中力が低い  
 充実感を得る  
 その他 \_\_\_\_\_

Q12: 残留後はどのように過ごすことが多いですか?  
 そのまま授業に出席する  
 残留の続きを行なう  
 自宅に帰って睡眠、休養をとる  
 授業はないが、なんとなくキャンパス内にいる  
 校内で仮眠をとる  
 運動をする  
 その他 \_\_\_\_\_

Q13: 残留の感想を教えてください  
 いやだ  
 場合によっては仕方がないと思う  
 積極的にやりたい  
 楽しい  
 その他 \_\_\_\_\_

Q14: 残留の現状に満足していない点を教えてください

### 3. アンケート結果および考察

有効回答数は164件であり、対象4,570名のうち、残留経験ありの大学学部生男子は92件、学部生女子32件、性別不明4件、大学院生男子7件、院生女子3件の計128件、残留経験なしの大学学部生男子18件、学部生女子7件、大学院生男子0件、院生女子1件の計26件であった。このように、今回は回収率が低く、SFC全体の残留傾向を捉えたとはいえなかった。

SFCの学生は、“SFCホームページ”から学事日程を確認し、キャンパスライフを送っている。そこで、今回上記ホームページにアンケートを掲示したが、実施期間が15日間と短かったこと、およびアンケート実施の宣伝を充分に行わなかったことが低回収率の原因と考えられた。しかし、CNSを活用してのアンケート調査は、学生が自分の都合の良い時に回答可能であること、また、回答データを統計ソフトや他のソフトに加工することができるので、集計、グラフ作成、その他の解析等が速やかに行え、回収したデータを手入力する時間が省かれる等の利点がある。今回、このようなアンケート調査は初めての試みであり、十分な結果は得られなかったが、今後有効活用できるよう検討していきたい。

#### 今後の展開

現在ITは、医療・教育などさまざまな現場

で普及している。これまで、SFC保健管理センターでは、主に通信メディアとして電子メール機能を活用していた。しかし、最近電子メールによる情報伝達を過信してはいけないという報告がだされた<sup>1)</sup>。すなわち、送った電子メールを見てない人がいることを前提に考えるべきである、プライバシー流出の恐れが常にある、意志疎通の問題では、解釈のされ方が予想とはずれ、意志の交流がうまくいかなかった等の報告がなされている<sup>1)</sup>。今後、電子メールを有効活用していくには、充分に考慮していく必要があると考える。

#### 文 献

- 1) 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス LAMP 2 (LAN Amenity Monitoring Project 2) 委員会：第2回 SFC—CNS 利用実態調査キャンパスライフ満足度調査報告書 (LAMP 2 Report) 2000
- 2) 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス CAMP 2 (Campus Amenity Monitoring Project 2) 委員会：第2回 SFC キャンパスライフ満足度調査報告書
- 3) 照屋浩司，他：イントラネットを利用した職域の禁煙指導について (第1報) (会議録)，産業衛生学雑誌，42 (臨増)：453，2000
- 4) 角田透，他：イントラネットを利用した職域の禁煙指導について (第2報) (会議録)，産業衛生学雑誌，42 (臨増)：452，2000
- 5) 河合直樹，他：全国の医師会情報ネットワークの構築状況について——メーリングリスト等によるアンケート調査の試み，医療とコンピュータ，11：69-73，2000